

# 平成 10 年度アマノリ養殖概況

萩平 将・團 昭紀

平成 10 年度漁期の概況は、採苗時期が高水温により遅れたため、育苗、冷凍入庫の作業が例年より遅くなった。本養殖の開始時期は、浮流し漁場では冷凍入庫期間を短縮しほぼ例年並となったが、育苗からそのまま本養殖に入る支柱漁場で例年より遅くなった。

本張り後は、11 月に強風による芽落ち等の被害を受け、12 月の共販枚数は前年比 62.9%となった。年明け後は順調な生産が続き、2 月下旬に栄養塩の低下による色落ちが見られたが、平成 10 年度漁期の共販枚数は約 1 億 6 千万枚、前年比 104.7%だった。なお、単価は高級品の荷動きが悪く単価が伸び悩み平均単価は 8.62 円、前年より 1.37 円安だった。

## 1 平成 10 年度漁場環境状況(図 1～7)

(降水量及び日照時間は徳島地方気象台のデータを用いた。)

## 2 平成 10 年度漁期の共販結果(図 8～9)

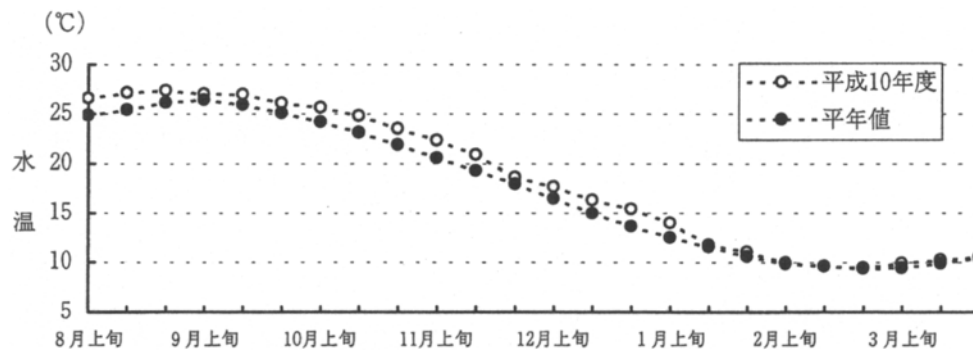


図 1 平成 10 年度水温(鳴門分場汲み上げ海水)

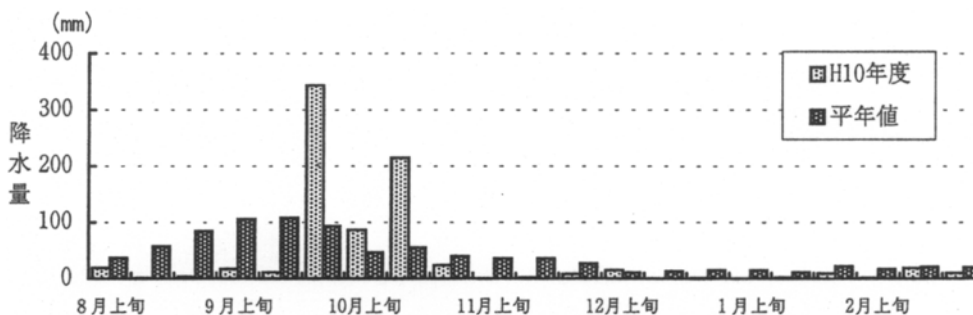


図 2 平成 10 年度漁期の降水量(徳島市)

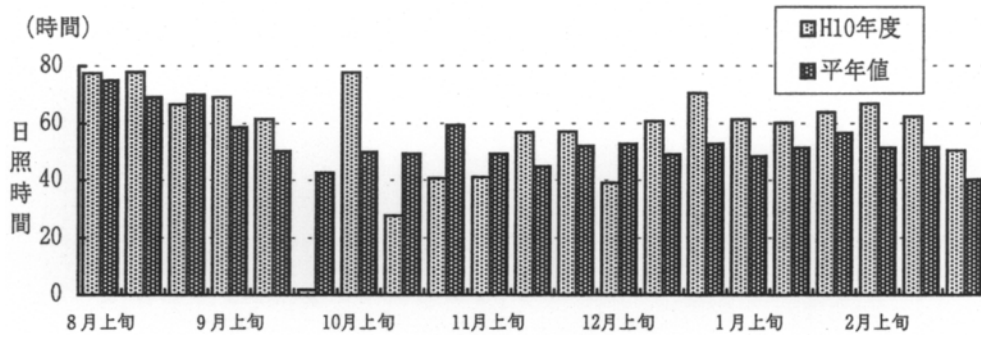


図3 平成10年度漁期の日照時間(徳島市)

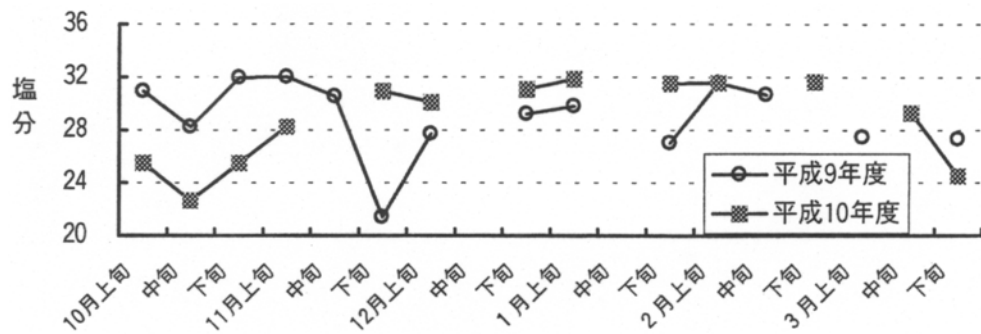


図4 各漁場の塩分(吉野川河口周辺)

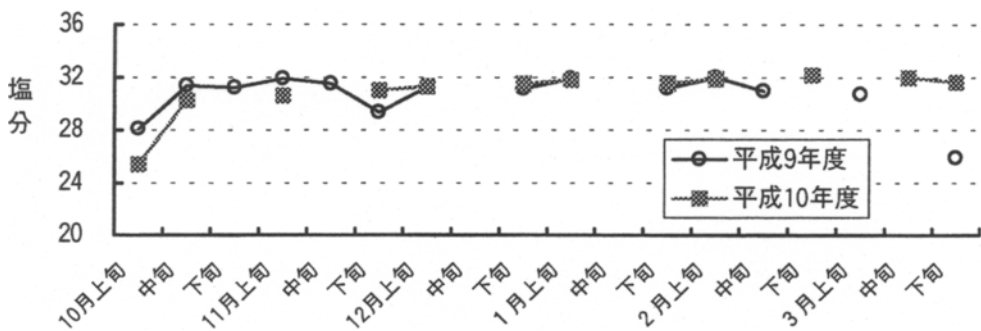


図5 各漁場の塩分(県中央漁場)

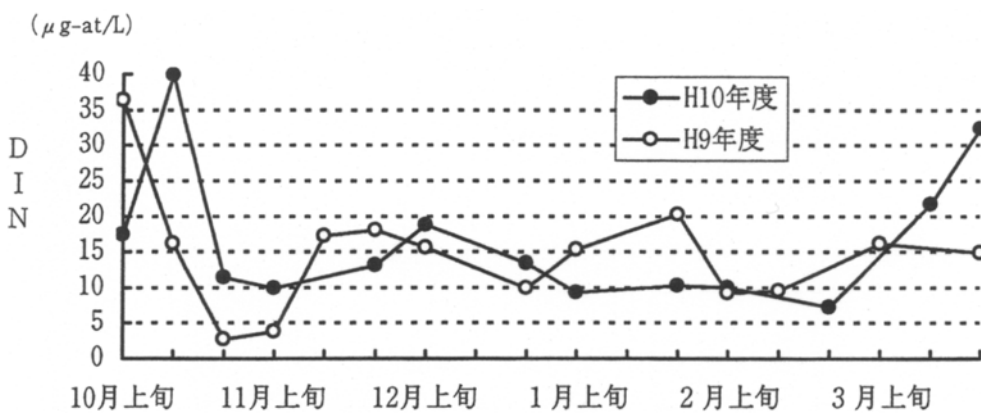


図6 各漁場のDIN(吉野川河口周辺)

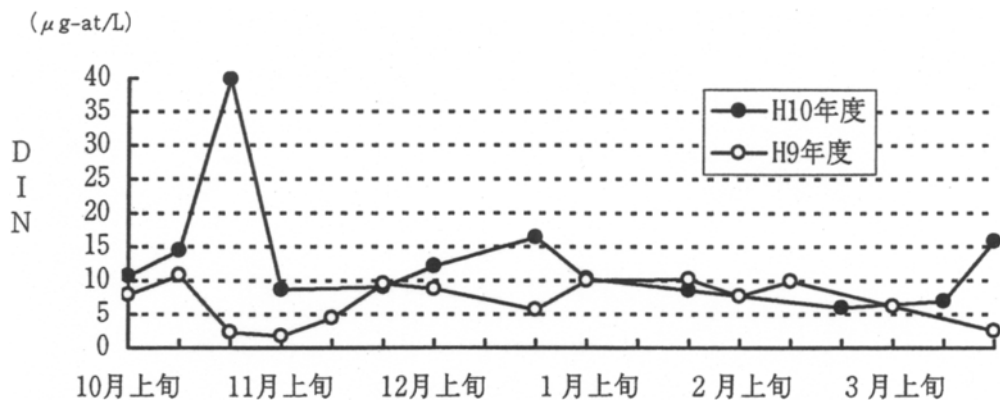


図7 各漁場のDIN(県中央漁場)

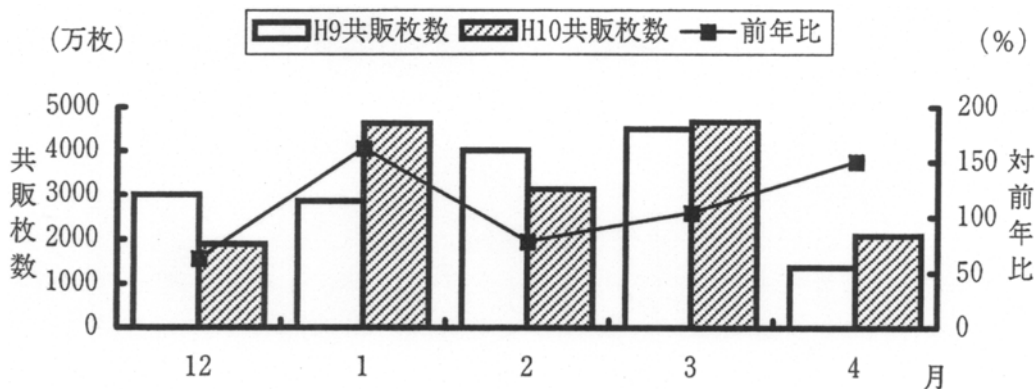


図8 月別共販枚数

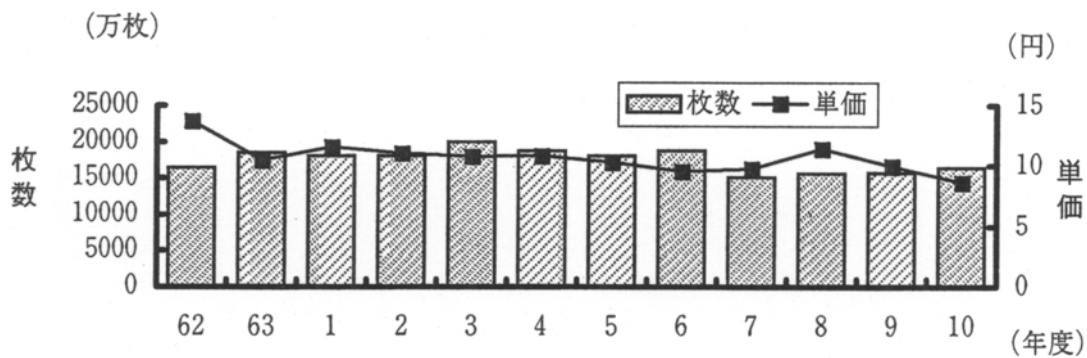


図9 年度別共販結果の推移